メディカルプロフェッショナリズムⅤ

科目責任者　種　市　　　洋
学年・学期　５学年・１学期

Ⅰ．前　　文

医学教育モデル・コア・カリキュラムでは，医師として求められる基本的な資質・能力の最上位としてプロフェッショナリズムがあげられています。プロフェッショナリズムとは，人の命に深く関わり健康を守るという医師の職責を十分に自覚し，多様性・人間性を尊重し，利他的な態度で診療にあたりながら，医師としての道を究めていくこととされ，そのためには社会から信頼され，思いやりを持って他者に接する態度，医師に相応しい教養や倫理観等を身につける必要があります。そのために獨協医科大学のプロフェッショナリズム教育プログラムとして順次性を持った６年一貫のD-Mepを開設しました。

D-MepⅤでは，クリニカル・クラークシップで実臨床の場に出る学生に求められるプロフェッショナリズムを学びます。実際に患者と接するにあたっては，診療で知り得た個人情報の保護が強く求められます。また検査や処置，手術などを行う際に起こりうるインシデント，アクシデントを知り，その発生予防に努めることも必要です。本授業では医師に求められる個人情報保護のあり方，医療事故とその予防，医療紛争について学び理解することを目指します。また臨床の場においてはさまざまな臨床研究が行われますが，実臨床での研究倫理，研究デザインなどについても修得することを目指します。

Ⅱ．担当教員

辰　元　宗　人（医療安全推進センター（医療安全管理部門））
濱　口　眞　輔（麻酔科）
上　杉　奈　々（地域医療教育部門／研究倫理支援室）
小　橋　　　元（公衆衛生学）

Ⅲ．一般学習目標

臨床現場で求められるプロフェッショナリズムについて学び，実践できる。

Ⅳ．学修の到達目標

医療現場で必要な個人情報の保護について理解する。
医療現場でのインシデント，アクシデントについて理解する。
医療安全，医療事故防止の重要性と方法について理解する。
医療紛争の原因，経過を学び，その発生を防ぐことの重要性を理解する。
臨床研究における医療倫理について理解する。
臨床研究のデザインについて理解し，模擬的な研究プランを立てる。

Ⅴ．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（１：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
２：ディスカッション，ディベート　３：グループワーク　４：実習，フィールドワーク　５：プレゼンテーション
６：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
1	7	31	月	1	医療安全①	辰　元　宗　人	1

五学年

回数	月	日	曜日	時限	講　　義　　テ　　ー　　マ	担　当　者	アクティブラーニング
2	7	31	月	2	医療安全②	辰　元　宗　人	3
3		31	月	3	医療安全③	辰　元　宗　人	3
4		31	月	4	緩和ケア①	濱　口　眞　輔	1
5		31	月	5	緩和ケア②	濱　口　眞　輔	3
6		31	月	6	緩和ケア③	濱　口　眞　輔	3
7	8	1	火	1	臨床研究に求められる倫理	上　杉　奈　々	1
8		1	火	2	臨床研究のデザイン①	小　橋　　　元	3
9		1	火	3	臨床研究のデザイン②	小　橋　　　元	3
10		1	火	4	臨床研究のデザイン③	小　橋　　　元	3

第１, ２, ３回：「医療安全」（インシデント・アクシデント，医療安全を含む）

・病院実習に出るにあたって知っておくべき個人情報の保護について，電子カルテで患者情報を操作しながら理解する。

・病院でのインシデント，アクシデントとはどういうものか，発生した際の手続きなどについて理解する。

・医療安全室の役割を把握し，医療従事者が留意すべき事柄について理解する。

・演習では，個人情報漏洩の事例，インシデント・アクシデントの事例をもとに，問題が生じた際の患者側の気持ちを理解し，どのように接するかに重点を置いて学習する。

第４, ５, ６回：「緩和ケア」

・講義：病棟実習で学んだ緩和ケアの実際について，質の向上となり得る点を説明できる。

・実習①：癌の告知，予後の宣告を受けた立場になって，自身の死生観について発表する。

・実習②：書籍教材を用いて，学生が患者役，医師役，看護師役となってロールプレイを行う。

Tutor：白川賢宗（緩和ケア専従医），岡本猛（足利日赤緩和ケア部長），渡辺邦彦（在宅緩和ケア医）

第７回：「臨床研究に求められる倫理」

・臨床研究の計画立案・遂行において求められる，倫理的妥当性と科学的合理性の関係と被験者保護のあり方について理解する。

・臨床研究の信頼性確保に必要な利益相反管理，モニタリング・監査および有害事象・不適合の報告の意義を理解する。

第８, ９, 10回：「臨床研究のデザイン」

・第７回の講義内容を踏まえて，実際の臨床研究計画書作成の演習を行う。

・臨床研究を計画する際の方法や注意点について理解する。

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

医療安全」「緩和ケア」についてはそれぞれレポートを提出する。

「臨床研究に求められる倫理」「臨床研究のデザイン」については，CCの班ごとに作成した臨床研究計画書をもって行う。

いずれも詳細については授業内で説明する。

Ⅶ. 教科書・参考図書・ＡＶ資料

（参考図書）

川村　　孝「臨床研究の教科書（第２版）」（医学書院・2020）

田代　志門「みんなの研究倫理入門 ―臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか」（医学書院・2020）

Ⅷ. 質問への対応方法

授業時間内に直接質問する。時間外においては，それぞれの担当教官に確認すること。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置く DP　　○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	◎
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	◎
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	◎
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	◎
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

担当教員から口頭試問等でフィードバックを行う。

なお，各基盤科目のフィードバックの詳細な方法については，講義時に担当教員より説明する。

Ⅺ. 求められる事前学習，事後学習および必要な所要時間

事前学習：シラバスを参考に講義の要点を確認すること。（所要時間の目安30分）

事後学習：講義の内容をまとめること。（所要時間の目安30分）

なお，各基盤科目の詳細な事前学修・事後学修については，各担当教員により説明する。

Ⅻ. コアカリ記号・番号

PR-01信頼, PR-02思いやり, PR-03教養, PR-04生命倫理

GE-01-06緩和ケア

RE-01リサーチマインド, RE-02既知の知, RE-03研究の実施, RE-04研究の発信, RE-05研究倫理

CS-05-01医療の質向上, CS-05-03安全管理体制, CS-05-05患者安全の配慮と促進, CS-05- 06患者安全の実践